

工学部研究資料館の公開および保守管理について

—国指定重要文化財の開放と工作機械の保守管理—

○中村秀二、倉田 大、白川武敏、清水久雄、平田正昭、廣田将輝、神之田信幸
機器製作技術系

1 はじめに

工学部研究資料館の建物と館内の工作機械 11 台は、平成 6 年に国指定重要文化財の指定を受けた。本館は、熊本高等工業学校の機械実験工場として明治 41 年に設置され、現存する建築物として全国でも数少ない大変貴重な歴史的な建造物である。また、平成 19 年には一般社団法人日本機械学会より工学部研究資料館および重要文化財工作機械（11 台）に新たに 2 台の工作機械を加え、機械遺産として認定を受けた。



2 機械遺産について

2.1 機械遺産とは

機械遺産は 2007 年 6 月に一般社団法人日本機械学会創立 110 周年記念事業により、歴史に残る機械技術関連遺産を大切に保存し、文化的遺産として次世代に伝えることを目的に、日本の機械技術発展において強い影響を与えた機械・機器・機械関連システム・施設・設計仕様書・教科書などを対象に与えられ、これらの機械遺産における所有、管理などの維持継続ができなくなった場合に、保存する制度である。

2.2 工学部研究資料館の歴史 - 機械遺産認定まで -

明治 30 年(1897)に設置された第五高等学校から熊本高等工業学校が明治 39 年(1906)に独立し、明治 41 年(1908)12 月熊本高等工業学校機械実験工場として竣工された。その後、熊本大学工学部に引き継がれ、昭和 47 年(1972)までの約 60 年間、実習工場として研究支援や学生指導などに用いられてきた。

昭和 52 年(1977)に熊本大学工学部 80 周年記念事業で、工学部研究資料館となり、平成 6 年に建物と工作機械群 11 台が重要文化財として指定された。平成 9 年(1997)、熊本大学工学部 100 周年記念事業の一環として、これまで稼動していた 3 台の機械以外 8 台の動態保存化を進め、平成 11 年(1999)国指定重要文化財工作機械 11 台全てが動態保存となった。平成 18 年(2007)日本機械学会より、工学部研究資料館および館内工作機械群 13 台(重要文化財 11 台含む)が機械遺産に認定される。

2.3 今後の工学部研究資料館の役割

工学部研究資料館は、機械遺産の認定条件にもあるように「歴史に残る機械技術関連遺産を大切に保存し、文化的遺産として次世代に伝えること」が肝要と考える。この機械遺産の認定により、毎年多くの来館者があり、秋には研究資料館の建物の空間を活かした音楽コンサートを開催し、大学の恒例行事になっている。

このように工学部研究資料館は、教育だけではなく、様々な分野に関しても活用され、貢献している。表 1 には平成 26 年度の工学部研究資料館の公開および来館者数を示す。

表 1 工学部研究資料館(重要文化財工作機械)の公開および来館者数

公開日	行事内容	来館者数(名)
平成 26 年 6 月 5 日	基礎セミナー(工学部以外の学生)	20
平成 26 年 6 月 6 日	春のさわやかコンサート	78
平成 26 年 7 月 30 日	文化財撮影(肥後銀行)	5
平成 26 年 8 月 3 日	中学生夏休み自由研究技術相談会	30
平成 26 年 8 月 4 日	インドネシア スラバヤ工科大学	10
平成 26 年 8 月 7 日	オープンキャンパス	674
平成 26 年 8 月 18 日	中国山東大学	10
平成 26 年 8 月 20 日	韓国海洋大学	40
平成 26 年 9 月 19 日	インドネシア	70
平成 26 年 10 月 10 日	第4回アジア教育工学会議(10日～11日)	37
平成 26 年 10 月 24 日	秋の夕暮 JAZZ コンサート	94
平成 26 年 11 月 1 日	夢科学探検 2014 およびホームカミングデー	529
平成 26 年 11 月 6 日	サクラサイエンス ミャンマー(宇佐川先生引率)	10
平成 27 年 1 月 29 日	自然科学系国際共同研究拠点キックオフシンポジウム	9
平成 27 年 2 月 5 日	全国コーディネート活動ネットワーク中国四国九州沖縄地域会議	25
平成 27 年 2 月 24 日	熊大―九大交流会	10
	小計	1,651
毎月第3金曜日	定期公開 平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月	295
その他	平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月	6
	合計	1,952

3 おわりに

工学部研究資料館は、年間行事、依頼開放のほか、毎月第3金曜日(平成24年度より)に一般公開を行っている。また、研究資料館の維持管理のため、館内の定期的な清掃と工作機械については、技術職員により毎月メンテナンスを行なっている。この歴史ある貴重な建物および工作機械群を学生や一般の多くの方々に実際に動く状態で見学していただき、機械産業の原点を感じていただければ幸いである。

※各種連絡先

工学部研究資料館に関すること

建築工学科教授 伊東 龍一館長 Tel 096-342-3554

工作機械および動態保存に関すること

技術部 機器製作技術系 中村秀二 Tel 096-342-3779

工学部研究資料館の見学に関すること

〒860-8555 熊本市中央区黒髪2丁目39-1

自然科学系事務ユニット 総務担当 Tel 096-342-3513